

正直・誠実・信用 を旨として

— 柳田商法 —

色あせし写真に偲ぶ遠き祖の
百年の光今に流れむ



柳茂商店（小諸市荒町）

柳田商法

文明的商人とも生活改善の先駆とも称された初代柳田茂十郎は天保四年（一八三三）菓種商柳田五兵衛の三男として小諸町字荒町に生まれました。

嘉永四年（一八五二）頃より家事手伝いのため、諸国へ小間物や茶の仕入れに出かけ商いの仕方等を学びました。文久元年（一八六一）、二十八歳の時、親より資産を分与され同町へ分家し茶・小間物・金物等の商売を始めました。投機的な性分もあって一時商いも危機に陥りましたが、「真の商売は堅実、信用が第一」と遠州（静岡県）の間屋の主人の諭しに一念発起、以後、堅実信用、質素儉約は茂十郎の商法（経営哲学）の根本となりました。その柳田商法は次の三点でした。

- 一、経営の合理化
- 二、店員を大切に
- 三、地域社会への貢献

柳田金物店（現株ヤナギダ）の創立者小宮山直太郎は明治十五年（一八八二）、父兼松に伴われ、柳田茂十郎商店に入店しました。奉公期間は明治三十三年（その後、開業までの間、御礼奉公をした）までで、その三十三年には初代茂十郎は没しましたが、その間の二十三年間は、みっちり上記の柳田商法を仕込まれたと思われれます。そしてその商法の神髄は直太郎―国一―憲一―陽一とその後の「株ヤナギダ」に脈々と引き継がれてきています。



初代 柳田茂十郎



3代目 茂十郎



2代目 茂十郎



明治40年頃の柳田本店 同年正月の初荷風景

(中略)

大正 年度

柳 會社 柳茂商店々則

柳 茂商店々則

網 領

一、柳茂商店ハ金物店ヲ本店トシ、茶店及市町雜貨店ハ分店トス

二、本店ハ柳田茂十郎店主トナリ、市町雜貨店ハ柳田第次茶店ハ柳田三四店主トナリ、柳田第三ハ若三店ノ相談役トナリ、互ニ協力一致シテ祖傳事業ノ隆盛發展ヲ計ル

三、我長野縣籍レニ見テ此名譽アル柳茂商店々主ハ勿論店員ハ全部籍代ノ偉人タル初代柳田茂十郎ノ主筆ヲ体レ之レガ實績躬行ヲ計リ時代ノ進歩ト共ニ益々向

上 發 展 ヲ 計 ル

店 主

一、店主ハ品性ノ陶冶ト事業ノ研究トニ留意シテ本先躬行範ヲ店員ニ示シ、温情以テ店員ノ教育指導ニ勤ムル

二、各店主ハ毎月六日必ズ會合シテ事業ノ成績及ヒ店員ノ勤怠ヲ調査シテ之レガ改善ヲ計ル

三、毎年一回必ズ店卸キナシ本分店ノ營業成績ヲ精算スル

店 員

一、店員トシテ入店シタルモノハ店長ト家長ト仰ギ誠實

人共貴ヲ負フモノトス

十四、負傷疾病ノ際治療費ハ乙店員ハ店主ニテ負擔シ、甲店員ハ各自ノ自辨トス

但シ事情ニ依リ若クハ公務上ノ負傷疾病ノ際ハ此限リニアラズ

十五、夜業ナキ日ハ毎夜十時迄必ズ研究勉強シ、店主若クハ古參ノモノハ之ヲ指導教育スル事

十六、毎日曜日大経日其外角アル日ハ夜間ハ店主ノ許可スル範圍内ニ於テ慰安休養スル事

十七、毎年春秋ノ内一週短店主ノ指示ニ依リ交替ニ研學旅行若クハ特別休養スル事

以上店則ハ米價一石壹圓ヨリ出ニ至ル時代ノ標

準ニシテ時代ノ變遷ニ依リ改正スルモノトス

◎ 附 柳 茂 商 店 入 社 契 約 書

拙者(男) 儀今般貴店へ商業見習シテ御預ケ人員御承諾ニ付左ニ確ク約定仕候

一年期中ハ實家如何様ノ變事アルモ本人ノ支障及人禮ニ缺クル事ナキ場合ハ勤務ノ事

一年期中本人ノ過失ヨリ生ズル損害或ハ本人ノ病氣重症ニテ御沙汰ノ節ハ加印保證人ニ於テ引受テ聊モ貴店ニ御迷惑相掛ケ申間敷キ事

一、柳茂商店人目ノ上カラハ店則ハ申スニ及バズ家長及ヒ各分

店長ノ命ヲヨク奉レ、禮節ヲ守リ先輩ノ指揮ニ從ヒ執務ノ難易ヲ不問總テ貴店各御支配者ノ御都合ニ異議ナキ事

右ノ通り契約致シ茲ニ親子保證人連署契約書仍テ如件

大正 年 月 日

何 縣 何 郡 何 町 村 何 番 地

本人實父ハ 龍橋 氏 名 印

本 人 氏 名 印

何 縣 何 郡 何 町 村 何 番 地

保 証 人 氏 名 印

小 諸 町 荒 町

柳 田 茂 十 郎 殿

柳茂商店の店則 (大正期)

契約証

拙者今般

金壹千圓ノ保險契約致ス處、拙者一身ハ都合ニ依リ、今般ニ付別紙委任狀相添テ契約致ス處、確實や為後年契約証呈入スル也

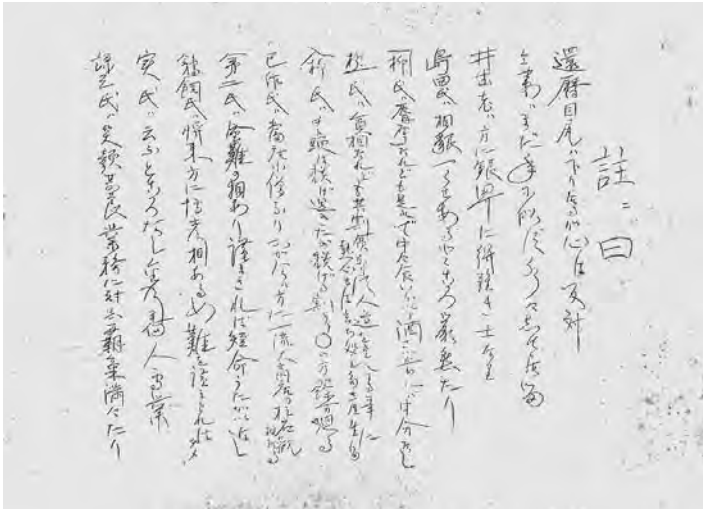
大正 年 月 日 被 保 者 小 宮 山 直 太 郎

保 險 者 小 宮 山 直 太 郎

大正 年 月 日

柳 田 茂 十 郎 殿

直太郎の保險契約証



還曆を迎えた茂十郎と柳田会の人々



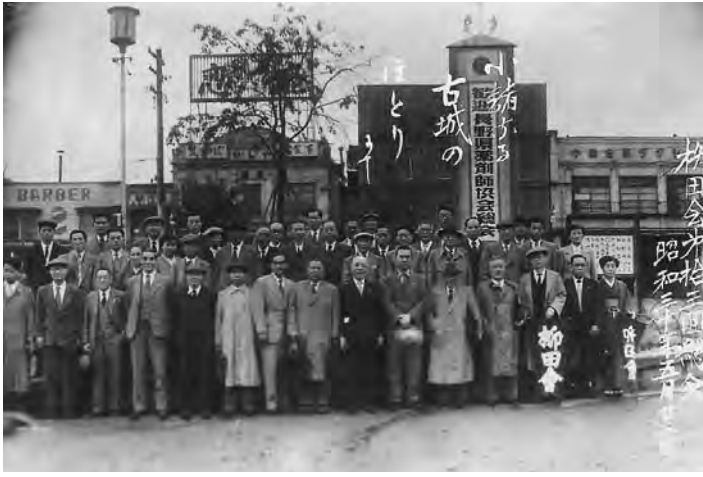
柳茂商店の帳場に
残る小物たんす
昔は柳田にも置いてあった



現在の柳茂（柳田茂十郎）商店の看板



柳茂商店に残る品々



第13回柳田会総会（昭和30年5月 小諸）



柳田会（初代柳田茂十郎の遺影を抱え）



第15回柳田会総会会場にて（昭和32年）



第29回柳田会総会（昭和46年6月 万座温泉）

柳田会会員名簿
小諸・北佐久地区

| | | | | | |
|-----------|------------------|-------------|----|-------|---------|
| 〒384-0001 | 小諸市荒町甲2916 | 柳田茂十郎本店 | 4代 | 柳田茂十郎 | 総本店 |
| 〒384-0003 | 小諸市市町丙11 | 柳田良商店 | 2代 | 柳田修理 | 小諸市町本店 |
| 〒384-0003 | 小諸市市町丙9 | 柳東信建材(株) | 2代 | 柳田宏 | 小諸市町本店出 |
| 〒384-0003 | 小諸市東山区甲10715 | 大島義尚 | 2代 | 大島義尚 | 小諸市町本店出 |
| 〒385-0002 | 佐久市岩村山西本町1186 | 柳(資)柳田吉二商店 | 2代 | 小山正 | 岩村田柳出 |
| 〒385-0002 | 佐久市岩村田本町742 | 柳マ(株)柳増商店 | 2代 | 大峽昭一 | 小諸市町本店出 |
| 〒389-0206 | 北佐久郡御代田御代田栄町2428 | 柳ス(株)柳田設備商事 | 2代 | 湯本住衛 | 岩村田柳出 |
| 〒384-2200 | 北佐久郡望月町9712 | 柳〇柳佐金物店 | 2代 | 工藤雅利 | 中込柳出 |
| 〒384-2305 | 北佐久郡立科町芦田 | 柳ノ柳田商店 | 2代 | 油井美明 | 望月柳出 |
| 〒384-2107 | 北佐久郡浅科村蓬田2211 | 柳ソ(株)柳田商店 | 2代 | 松沢康夫 | 小諸柳茶店出 |
| 〒386-0001 | 上田市材木町14612 | 柳柳田宗助商店 | 2代 | 小宮山宗助 | 本店 |
| 〒386-0001 | 上田市中央5113156 | 柳(三)柳田政太郎商店 | 2代 | 金子政太郎 | 本店 |
| 〒389-0515 | 東御市常田 | 大柳(資)柳田金物店 | 2代 | 新井伸一 | 本店 |
| 〒386-0152 | 上田市大屋461 | 柳五(資)三浦金物店 | 2代 | 三浦朋男 | 本店 |
| 〒386-0400 | 小鼻郡丸子町石井 | 柳(有)柳田金物店 | 2代 | 中山久夫 | 上田柳出 |
| 〒386-0407 | 小鼻郡丸子町上長瀬3580 | 柳(株)ヤナギダ | 2代 | 小宮山国一 | 本店 |

草創の人々

— 柳田金物店創業 —

会うこともなき草創の主なれど
道説く面持ち眼光に顕つ



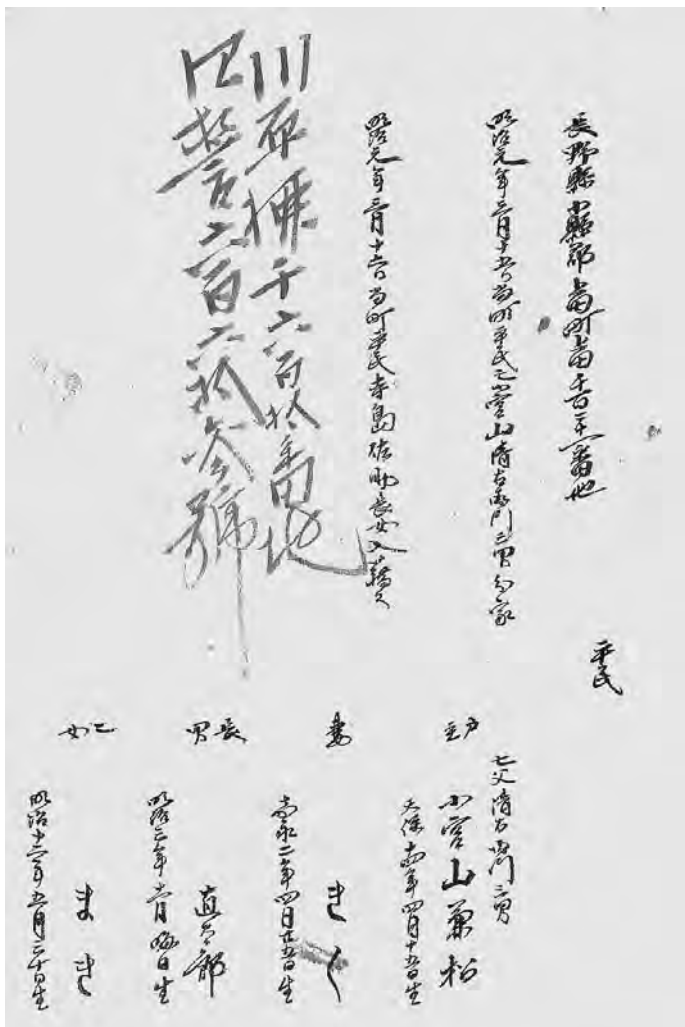
恵比寿講の飾り物（五条の橋、義経と弁慶の場）、柳田金物店（海戸）の前に立つ直太郎（左から3人目）

直太郎入店

直太郎が入店したのは茂十郎四十九歳、まさに油の乗った時でした。「年譜」によると明治十五年（一八八二）は「本家と協同し、荒町に施薬院を設けて、困窮者のため医薬の道を開いた」年でもありました。

茂十郎五十歳前後の頃は柳田の店は番頭以下雇人は総計三十名ほどでした。直太郎もその一人となって店の下働きに精を出したと思われまます。普通十二〜十三歳頃新入りとなりますが、直太郎はその時、十二歳でした。

茂十郎はそんな新入りの小僧に対しては二十歳の頃から毎年賞与として、ひそかに当人のために積金しておいて、一定額になると物陰に呼んでそれを伝えます。そして末の見込みのついた時は当人を呼んで「お前にはノレンを分けてやる時の資本に、いくらいくらためておいたから、一層精を出してくれ。ただし他言してはならぬ」と言ったといわれます。この言葉の重さと温かさ、そして金額の多さなどに驚き、そして多くの者は思わず感泣したそうです。直太郎の年季明けが三十三年で、茂十郎の死の年であり、ノレン分けに至る詳細は詳らかではありませんが、三十四年には井桁柳（しほ）の商標が見られます（10頁中段右の写真）ので、上記に近い励ましを受け感泣したと思われまます。



戸主 小宮山兼松



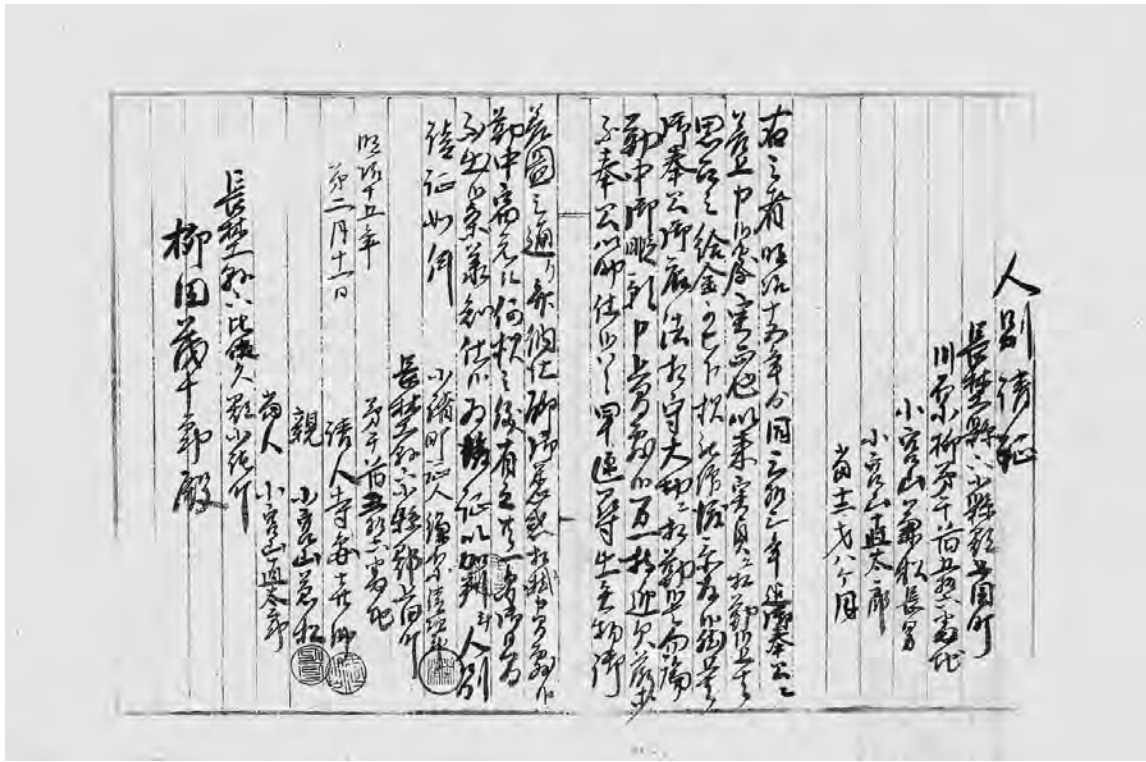
母きしの父 寺嶋佐助



直太郎の母 小宮山きし



直太郎の父 小宮山兼松



直太郎12歳の時、柳田茂十郎商店へ奉公



| | | | | | | | | | |
|------|------|-------|--------|------|-------|------|------|------|------|
| 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 |
| 使 | 市月三取 | つるり之前 | 岩古田の馬場 | 酒蔵 | 前山信太郎 | 梶本 | 梶本 | 梶本 | 梶本 |

| | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 |
| 可 | 可 | 可 | 可 | 可 | 可 | 可 | 可 | 可 | 可 |

| | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 | 三月廿四 |
| 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 | 比井 |

明治34年の圃勘定

借用書あれこれ

借用金証書

一金拾五圓也

但、利息年率三割三厘

明治三十二年三月三十一日

此証書品

受入立合正二借出條如實正也然上ハ
明治三十二年三月三十一日元利能相返還可仕候為一朔日経過ノ節ハ朔
日別當リ返シニ餘ニ付振當基消行ニ於テ返當ト勘括ノ際格ナリ申上ル
我貸取利ノ内ハ朔受取下見付不足相立候ハ、返シ返金可仕ハ勿論且
借出條一覽ニ照シテ借用額ヲ御請求通シ申渡可仕候將又証書品買取下
リ取返取付取取、非當ニ感取候等相立候節、消行ノ御取ニ照シ入金又
ハ増取可出可申候取付之方、然レ、期限中、雖モ消金、御返候ノ御所
留置下付テ取取候之候為後日當用面消仍ト知存

本人為一約定期日一日タリモ経過候節ハ公認ノ借書ヲ閉クテモ受入並希
御務下下、本人ハ、借出條行在不在又ハ、証書品、如何其他ノ事情ニ照シテ
又、現存ノ否、元利能、代取可仕ハ勿論其他部ヲ本人ノ定ノ通シ、表取相違
ハ可申候為後日受入待取付ト知存

一若、本人受入共期日過消テ候、候節ハ、消行所在地ノ裁判所ニ於テ御請求被
下取取候之候也

明治三十二年四月五日

借用人 小宮山三郎
受入人 小宮山三郎

和信社 高松支店 小宮山三郎 印

借用金証書

一金拾五圓也

但、利息年率三割三厘

明治三十二年三月三十一日

此証書品

受入立合正二借出條如實正也然上ハ
明治三十二年三月三十一日元利能相返還可仕候為一朔日経過ノ節ハ朔
日別當リ返シニ餘ニ付振當基消行ニ於テ返當ト勘括ノ際格ナリ申上ル
我貸取利ノ内ハ朔受取下見付不足相立候ハ、返シ返金可仕ハ勿論且
借出條一覽ニ照シテ借用額ヲ御請求通シ申渡可仕候將又証書品買取下
リ取返取付取取、非當ニ感取候等相立候節、消行ノ御取ニ照シ入金又
ハ増取可出可申候取付之方、然レ、期限中、雖モ消金、御返候ノ御所
留置下付テ取取候之候為後日當用面消仍ト知存

本人為一約定期日一日タリモ経過候節ハ公認ノ借書ヲ閉クテモ受入並希
御務下下、本人ハ、借出條行在不在又ハ、証書品、如何其他ノ事情ニ照シテ
又、現存ノ否、元利能、代取可仕ハ勿論其他部ヲ本人ノ定ノ通シ、表取相違
ハ可申候為後日受入待取付ト知存

一若、本人受入共期日過消テ候、候節ハ、消行所在地ノ裁判所ニ於テ御請求被
下取取候之候也

明治三十二年四月五日

借用人 小宮山三郎
受入人 小宮山三郎

借用金証書

一金拾五圓也

但、利息年率三割三厘

明治三十二年三月三十一日

此証書品

受入立合正二借出條如實正也然上ハ
明治三十二年三月三十一日元利能相返還可仕候為一朔日経過ノ節ハ朔
日別當リ返シニ餘ニ付振當基消行ニ於テ返當ト勘括ノ際格ナリ申上ル
我貸取利ノ内ハ朔受取下見付不足相立候ハ、返シ返金可仕ハ勿論且
借出條一覽ニ照シテ借用額ヲ御請求通シ申渡可仕候將又証書品買取下
リ取返取付取取、非當ニ感取候等相立候節、消行ノ御取ニ照シ入金又
ハ増取可出可申候取付之方、然レ、期限中、雖モ消金、御返候ノ御所
留置下付テ取取候之候為後日當用面消仍ト知存

本人為一約定期日一日タリモ経過候節ハ公認ノ借書ヲ閉クテモ受入並希
御務下下、本人ハ、借出條行在不在又ハ、証書品、如何其他ノ事情ニ照シテ
又、現存ノ否、元利能、代取可仕ハ勿論其他部ヲ本人ノ定ノ通シ、表取相違
ハ可申候為後日受入待取付ト知存

一若、本人受入共期日過消テ候、候節ハ、消行所在地ノ裁判所ニ於テ御請求被
下取取候之候也

明治三十二年四月五日

借用人 小宮山三郎
受入人 小宮山三郎

借用金証書

一金拾五圓也

但、利息年率三割三厘

明治三十二年三月三十一日

此証書品

受入立合正二借出條如實正也然上ハ
明治三十二年三月三十一日元利能相返還可仕候為一朔日経過ノ節ハ朔
日別當リ返シニ餘ニ付振當基消行ニ於テ返當ト勘括ノ際格ナリ申上ル
我貸取利ノ内ハ朔受取下見付不足相立候ハ、返シ返金可仕ハ勿論且
借出條一覽ニ照シテ借用額ヲ御請求通シ申渡可仕候將又証書品買取下
リ取返取付取取、非當ニ感取候等相立候節、消行ノ御取ニ照シ入金又
ハ増取可出可申候取付之方、然レ、期限中、雖モ消金、御返候ノ御所
留置下付テ取取候之候為後日當用面消仍ト知存

本人為一約定期日一日タリモ経過候節ハ公認ノ借書ヲ閉クテモ受入並希
御務下下、本人ハ、借出條行在不在又ハ、証書品、如何其他ノ事情ニ照シテ
又、現存ノ否、元利能、代取可仕ハ勿論其他部ヲ本人ノ定ノ通シ、表取相違
ハ可申候為後日受入待取付ト知存

一若、本人受入共期日過消テ候、候節ハ、消行所在地ノ裁判所ニ於テ御請求被
下取取候之候也

明治三十二年四月五日

借用人 小宮山三郎
受入人 小宮山三郎

借用金証書

一金拾五圓也

但、利息年率三割三厘

明治三十二年三月三十一日

此証書品

受入立合正二借出條如實正也然上ハ
明治三十二年三月三十一日元利能相返還可仕候為一朔日経過ノ節ハ朔
日別當リ返シニ餘ニ付振當基消行ニ於テ返當ト勘括ノ際格ナリ申上ル
我貸取利ノ内ハ朔受取下見付不足相立候ハ、返シ返金可仕ハ勿論且
借出條一覽ニ照シテ借用額ヲ御請求通シ申渡可仕候將又証書品買取下
リ取返取付取取、非當ニ感取候等相立候節、消行ノ御取ニ照シ入金又
ハ増取可出可申候取付之方、然レ、期限中、雖モ消金、御返候ノ御所
留置下付テ取取候之候為後日當用面消仍ト知存

本人為一約定期日一日タリモ経過候節ハ公認ノ借書ヲ閉クテモ受入並希
御務下下、本人ハ、借出條行在不在又ハ、証書品、如何其他ノ事情ニ照シテ
又、現存ノ否、元利能、代取可仕ハ勿論其他部ヲ本人ノ定ノ通シ、表取相違
ハ可申候為後日受入待取付ト知存

一若、本人受入共期日過消テ候、候節ハ、消行所在地ノ裁判所ニ於テ御請求被
下取取候之候也

明治三十二年四月五日

借用人 小宮山三郎
受入人 小宮山三郎



明治期の柳田大売出し（右1番目柳が柳田金物店の幟旗）

通第 二七九号ノ一
 命 令 書
 長野縣小縣郡九子村大字上九子
 字海戸百五十三番地
 小宮山直太郎

第一條 申請者ハ所轄ノ警察署長ニ申請シテ之ノ届出スル所ニ依
 リ通話ニ要スル一切ノ機材及物品ヲ供給シ其設備及維持ヲ一
 等局長ニ委託スルニ付機材及物品ハ一等局長ノ承認ヲ受ケ
 第二條 通話ノ設備ニ要スル費用ノ概算書ハ一等局長ニ之ヲ
 申請者ニ交付スル

(中略)

第十五條 能利縣ノ工事完成ノ通知ヲ發シタリトシテハ
 維持料ハ一年度分ヲ二期ニ區分シ其年度ノ九月及三月ノ期
 限ニ申請者ヨリ能利縣ノ庫加入ノ申請又ハ能利縣ノ場合ニ於テ
 其期滿ニ依リ
 前項ノ維持料ニシテ一年ニ納ムルモノノアリトシ一月期ヲ
 以テ計テ其常月分ハ日數ニ拘ハラズ全月分ヲ能收ス
 第十六條 維持料中間所ノ移轉者ハ電柱ノ移轉後後者ノ請
 求ニ依リ申請者ヨリ電柱機電線等ノ施設又ハ費用加入ノ請
 求ハ長距離間人ニ依リテ又線路ノ短縮電線等設備ノ減少
 第十七條 設備維持及其他ニ要スル金額ハ一等局長ノ認定ヲ
 以テ期日及機材ニ付テハ
 第十八條 通話管ハ委託ノ生スル事項ニ付テハ損替經費ノ責
 任ヲ負
 第十九條 本命令書ニ變更ヲ生スルモノハ二月以前ニ之ヲ通
 知スル

明治四十一年 三月 四日
 逓信大臣 原 敬

特殊電話加入許可命令書

通第 一一七九號ノ一
 長野縣小縣郡九子村大字上九子
 字海戸百五十三番地
 小宮山直太郎

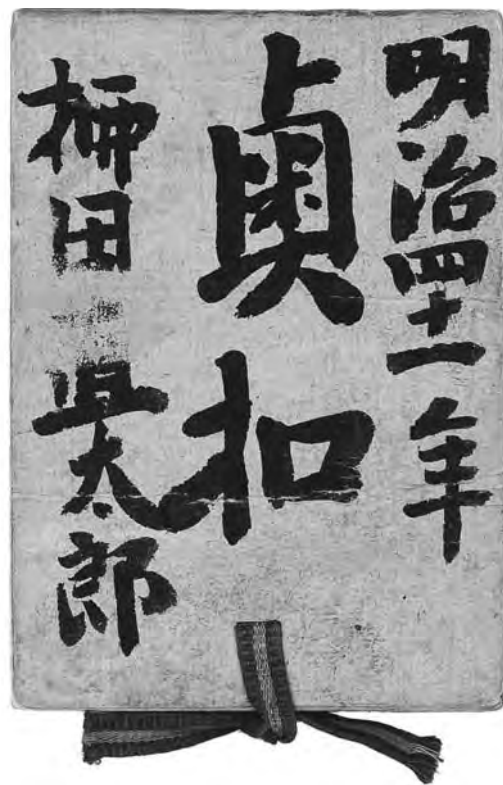
明治四十一年 二月 廿二日付申請特設電話加入ノ
 件認可ス但別紙命令書ノ事項ヲ遵守スヘシ
 明治四十年 三月 四日
 逓信大臣 原 敬

特殊電話加入許可

| | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 | 北原駒太 |
| 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り |

| | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 | 小林弥助 |
| 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り | 返り |

奥控 (上)北原駒太 (直太郎の妻かうの父)
(下)小林弥助



明治41年の奥控 (表紙)

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 第一面 | 第二面 | 第三面 | 第四面 | 第五面 | 第六面 | 第七面 | 第八面 | 第九面 | 第十面 | 第十一面 | 第十二面 |

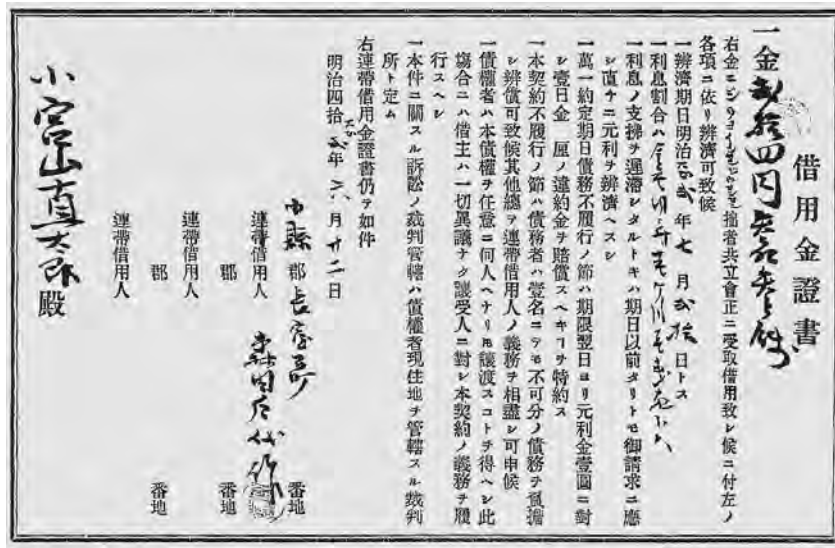
| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 第一面 | 第二面 | 第三面 | 第四面 | 第五面 | 第六面 | 第七面 | 第八面 | 第九面 | 第十面 | 第十一面 | 第十二面 |

奥控 愛国生命保険会社

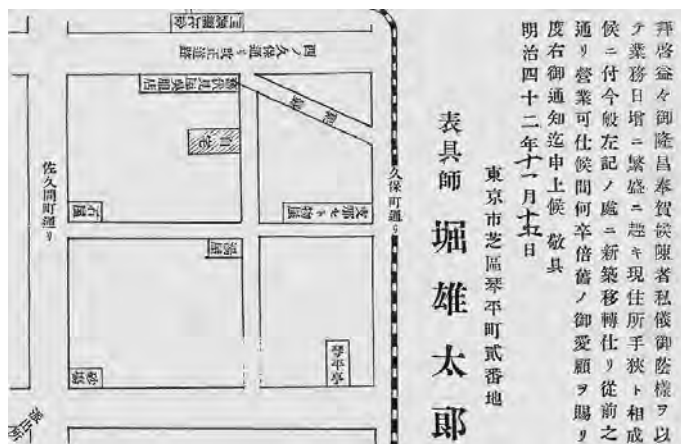
| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 第一面 | 第二面 | 第三面 | 第四面 | 第五面 | 第六面 | 第七面 | 第八面 | 第九面 | 第十面 | 第十一面 | 第十二面 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 | 日 | 月 |
| 廿九 | 十月 | 廿七 | 十月 | 廿五 | 十月 | 廿三 | 十月 | 廿一 | 十月 | 十九 | 十月 |
| 第一面 | 第二面 | 第三面 | 第四面 | 第五面 | 第六面 | 第七面 | 第八面 | 第九面 | 第十面 | 第十一面 | 第十二面 |

奥控 柳田茂十郎



借用金証書

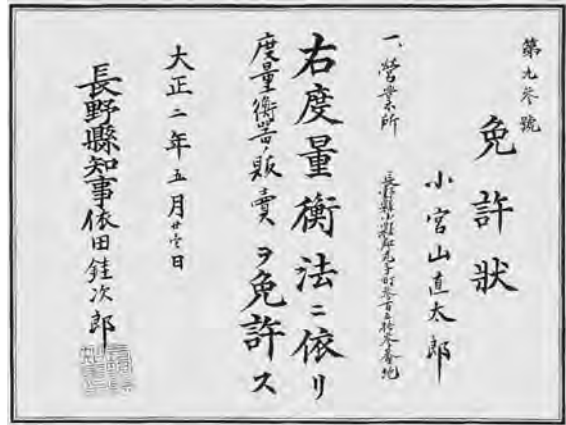


表具師、堀雄太郎から小宮山直太郎へ宛てた葉書（明治42年11月）

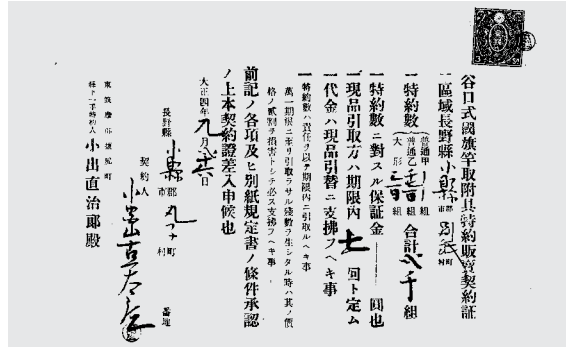


直太郎、日本赤十字社の正社員となる

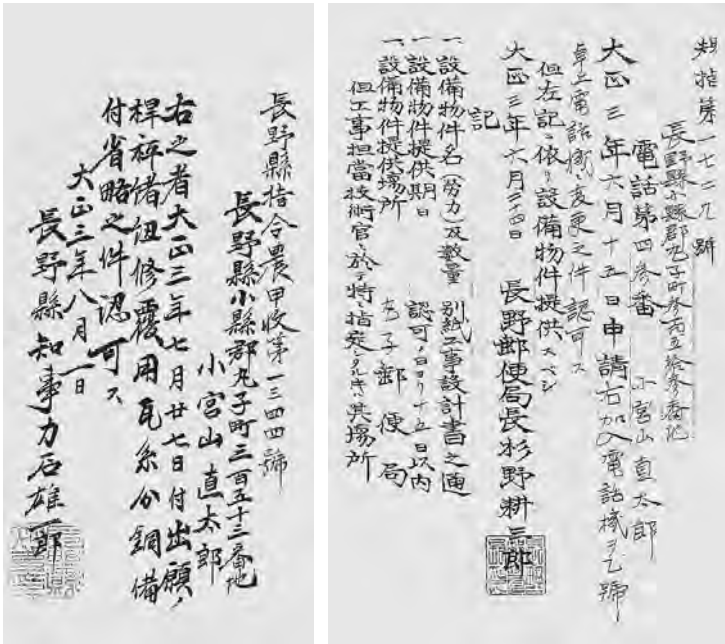
大正期の柳田



度量衡器販売の免許状



谷口式國旗竿取付具特約販売契約証(大正4年9月)



加入電話機の認可証、卓上電話に変更(大正3年6月)



恵比寿講 柳田金物店 大奉仕福引付き売出し(大正期)

支店一同から本店へ
 大正八年五月

支店一同
 全五郎
 真子
 民治郎
 全太郎
 直太郎
 九太郎
 三太郎
 五太郎

支店一同から本店へ
 大正八年五月

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正八年五月

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正八年五月

意見書（改革案）支店一同から本店へ（大正8年5月） 右から7番目に直太郎

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正九年十月

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正九年十月

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正九年十月

支店一同
 支店一同から本店へ
 大正九年十月

柳田茂十郎遺産分配案
 支店総代 上から5番目

柳田茂十郎遺産分配案（大正9年10月） 支店総代 上から5番目



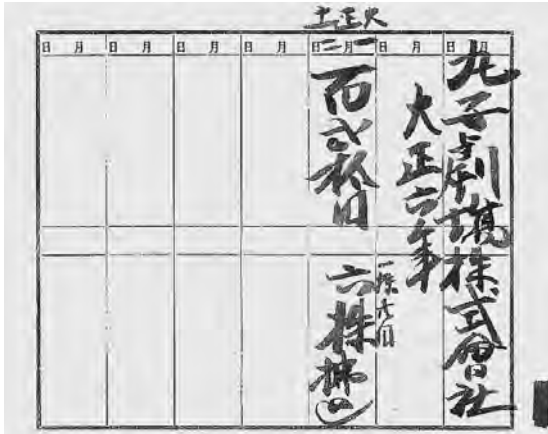
大正14年11月恵比寿講出しの柳田金物店（上丸子 右から1人目が直太郎、6人目が国一）

告知書
 十二月七日設立總會ニ於テ定款第二十八條ニ依リ惣代ニ互選候條此段及告知候也
 大正十三年十二月七日
 新任丸子町庶民信用組合 組合長 理事 下村萬助
 小宮山直太郎 殿

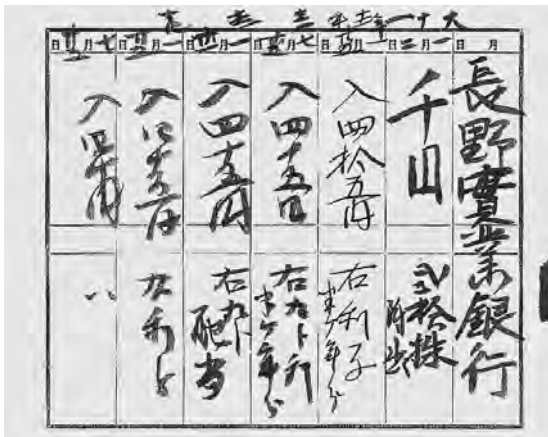
丸子町庶民信用組合総代告知書（大正13年12月7日）



奥控 丸子鉄道株式会社



奥控 丸子劇場株式会社



奥控 長野実業銀行



大正11年の奥控 (表紙)



奥控 長野度量衡株式会社



奥控 丸子庶民信用組合

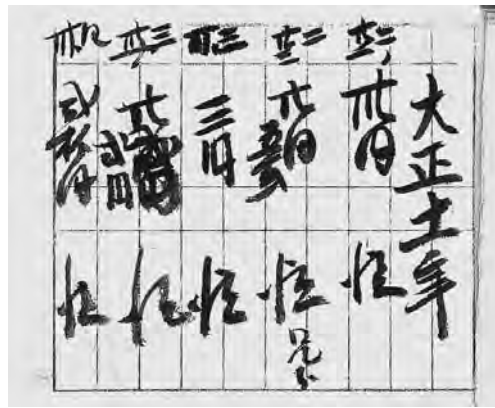


奥控 信濃銀行

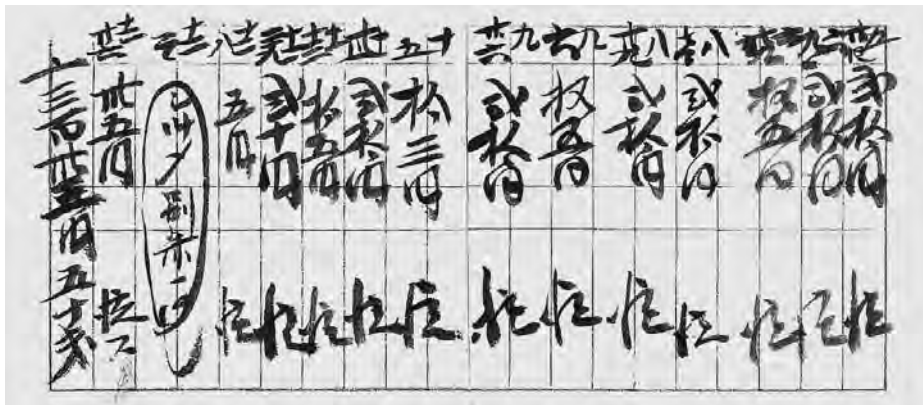


マチン＝お金

その他の符丁
 ソウコ＝お茶
 カクジヨウ＝手洗
 マル＝高い
 カク＝安い
 ヨクニン＝食事
 昭和四十年頃まで使用していました



マチン控 (大正11年)



山崎乙平の通帳 (大正11年11月)

SUB-AGENCY CONTRACT

AN AGREEMENT made this 16th day of March 1926 between the STANDARD OIL COMPANY OF NEW YORK, in Japan (hereinafter referred to as the Company) of the first part, and Sakae Station, No. 16, Minamachi, Sakae-cho, City (hereinafter referred to as the selling agent) of the second part, and Konryu-kan, No. 79, Maruko-machi, Nagoya-ken

(hereinafter severally and collectively referred to as the sub-agent) of the third part, whereby the following articles have been mutually agreed upon:—

1. The sub-agent, who with the consent of the Company is appointed such by the selling agent respecting the selling agency agreement made the 16th day of March 1926 between the Company and the selling agent, shall devote himself to the sale of Illuminating Oil of the Company taken delivery of from and for account of selling agent, and the business territory assigned to the sub-agent shall be strictly confined to the following area: Maruko-machi, Sakae-cho, and its Vicinity. The Company, however, reserves the right to appoint another sub-agent or sub-agents in the territory of the said sub-agent whenever it is deemed necessary by the Company.
2. The sub-agent shall not deal in any Illuminating Oil of other parties than the Company.
3. The sub-agent shall make all sales in accordance with prices and conditions as prescribed by the selling agent in accordance with the Company's instructions. Any changes in the Company's price affecting the sub-agent shall be promptly notified to him by the selling agent.
4. Commissions on the quantity of Illuminating Oil of the Company taken delivery of, from and for account of the selling agent and sold and delivered by the sub-agent shall be paid to him by the Company through the selling agent in accordance with a separate memorandum retained by the Company.
5. The sub-agent shall make a weekly report to the selling agent as to the quantity of Illuminating Oil received, sold and delivered.
6. The selling agent may store goods in the sub-agent's warehouses and commit the storage thereof to the latter, provided such storage points have first been approved by the Company in writing.
7. This agreement may at any time hereafter be terminated by any one of the contracting parties on giving a written notice to the other parties provided that the giving of such notice is evidenced by a Post Office Certificate of delivery of a registered letter. On cancellation of this agreement this copy of the agreement and accessory papers and Company's signboards shall be surrendered to the Company on demand.
8. It is mutually agreed that in the event of any controversy, the English text of this agreement shall be binding and taken as the basis of settlement.

IN WITNESS WHEREOF, the parties hereto have set their hands and seals the day and year first above written to triplicate copies hereof, one each to be retained by each of them.

STANDARD OIL COMPANY OF NEW YORK,
 Selling agent
 小宮山 亞太 大正
 Sub-agent
 小宮山 亞太 大正



復代理商契約證

大正十五年 三月 月 日 在 日本 澤 スタンダード オイル カンパニー オブ ニューヨーク (以下自社ト稱ス) 復代理商トシテ 小宮山 亞太 大正

(以下代埋商ト稱ス) 復代理商トシテ 小宮山 亞太 大正

一、大正十五年 三月 月 日 自社ト稱ス 日會社ト代理商トシテ 締結シタル代理商契約ニ關シ會社ノ承認ヲ以テ代理商ニヨリ指定セラレタル復代理商ノ計算ヲ以テ代理商ヨリ引取リタル會社ノ燈用石油ノ販賣ニ熱誠從事スヘシ而シテ復代理商ニ割當ララル、販賣地域ハ左記ノ通り限定セラレ、モントス

但シ會社ハ必要ト認ムル場合該復代理商ノ地域ニ更ニ著名成ハ數名ノ復代理商ヲ指定シ得ル權利ヲ保留ス

二、復代理商ハ會社以外ノ他ノ燈用石油ヲ賣捌クコトヲ得ス

三、復代理商ハ會社ノ命令ニヨリ代理商ニ依リテ指定セラレタル値段ト條件ニ基キ一切ノ販賣ヲナスベシ會社ガ復代理商ノ賣捌ニ影響ヲ及ボス賣値段ノ變更ヲナシタル場合代理商ハ直チニ復代理商ニ之ヲ通告スベキモノトス

四、代理商ノ計算ヲ以テ代理商ヨリ引取リタル會社ノ燈用石油ヲ復代理商ガ引取り且ツ賣捌キタル數量ニ對シ會社ハ其保有スル別紙賣書ノ各條項ニ基キ代理商ヲ通シ復代理商ニ手數料ヲ支給ス

五、復代理商ハ毎週會同其引取り賣捌キ且ツ引渡シタル燈用石油ノ數量ヲ代理商ニ報告スベキモノトス

六、代理商ハ復代理商ノ倉庫ニ商品ヲ貯藏シ其保管ヲ後者ニ委託スルコトヲ得但シ貯藏所ハ豫メ書面ヲ以テ會社ニヨリ承認セラレタルモノニ限ル

七、本契約ハ今後當事者ノ一方ヨリ他ノ當事者ニ書面ヲ以テ通告スルトキハ何時ニテモ解除スルコトヲ得但シ該通告ハ書留郵便配達證明書ヲ以テ設スルコトヲ要ス

本契約終了ノ場合ニ於テ本契約附屬證書類及ビ會社ノ看板ハ要求アリ次第會社ニ返還スベシ

八、萬一爭議ヲ生ジタル場合ニハ本證ノ英文ニ基キ解決スベキコトヲ相互ニ承認ス

右相違ナキヲ證スル爲メ各當事者ハ前記年月日ニ於テ本證書普通ヲ作成シ之ニ署名捺印シ上各其書通ヲ保有ス

代理 前 小宮山 亞太 大正
 復代理商 小宮山 亞太 大正

復代理商契約証 (在日本ザ・スタンダード・オイル・カンパニー・オブ・ニュー・ヨークと大正15年3月22日契約、ガソリンの販売を始める)

紐育スタンダード石油會社宛ての封筒



大正期の祝恵比寿講大出賣し（右から2人目が国一氏）

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 五 | 記 | 三 | 記 |
| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 |
| 五月 | 六月 | 七月 | 八月 |
| 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 右之通り | 右之通り | 右之通り | 右之通り |
| 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 |
| 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 |
| 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 |

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 三 | 記 | 二 | 記 |
| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 |
| 五月 | 六月 | 七月 | 八月 |
| 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 右之通り | 右之通り | 右之通り | 右之通り |
| 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 |
| 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 |
| 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 |

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 一 | 記 | 二 | 記 |
| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 |
| 五月 | 六月 | 七月 | 八月 |
| 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 右之通り | 右之通り | 右之通り | 右之通り |
| 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 |
| 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 |
| 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 |

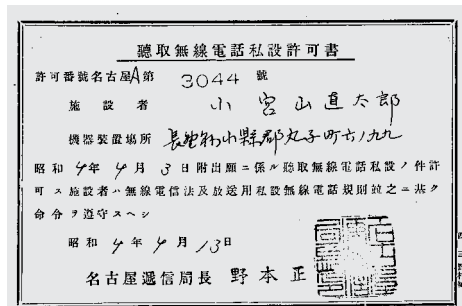
| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 二 | 記 | 一 | 記 |
| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 |
| 五月 | 六月 | 七月 | 八月 |
| 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 右之通り | 右之通り | 右之通り | 右之通り |
| 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 |
| 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 |
| 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 |

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 二 | 記 | 一 | 記 |
| 一月 | 二月 | 三月 | 四月 |
| 五月 | 六月 | 七月 | 八月 |
| 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 |
| 右之通り | 右之通り | 右之通り | 右之通り |
| 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 | 大正五年 |
| 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 | 高崎地方専賣局長 |
| 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 | 宇田吉一 |

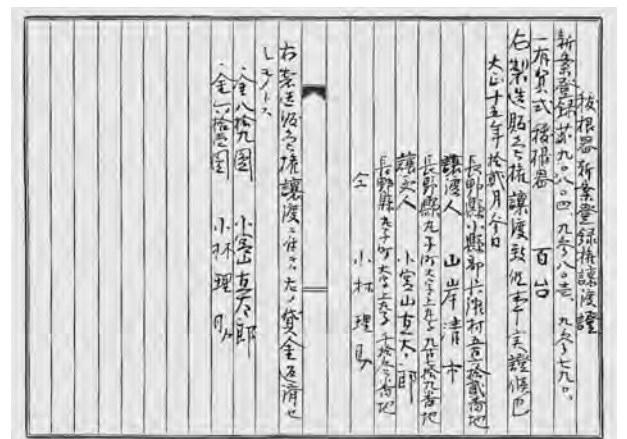
当時棚で扱っていた品々（販売品目：金物類のほか、砂糖、茶、食油、畳表、ガソリン、たばこ、国旗等々）



タバコ小売人指定書（昭和7年6月）



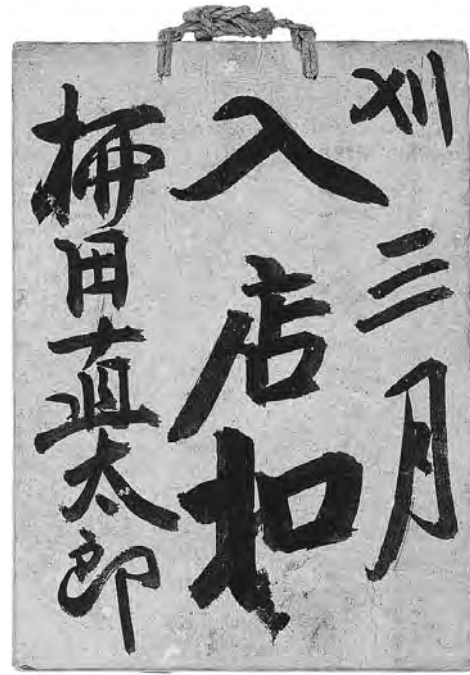
ラジオ許可書（昭和4年4月）



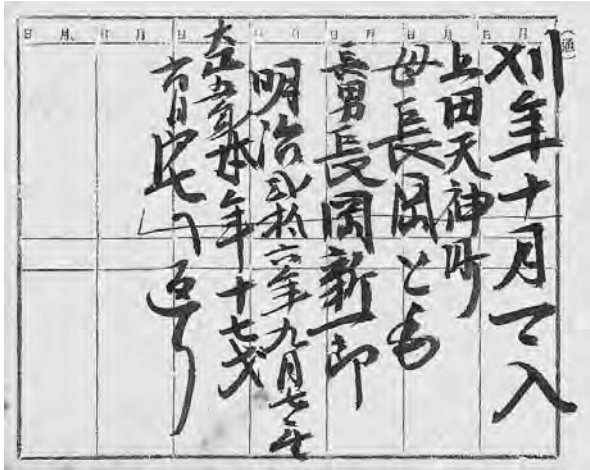
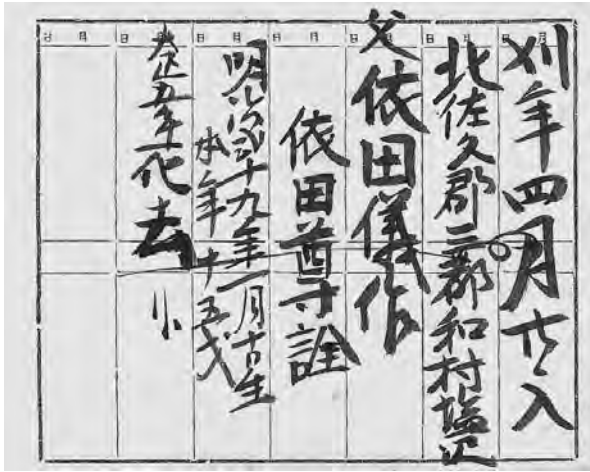
抜根機新案登録権讓渡証（大正15年12月3日）

柳柳田を支えて

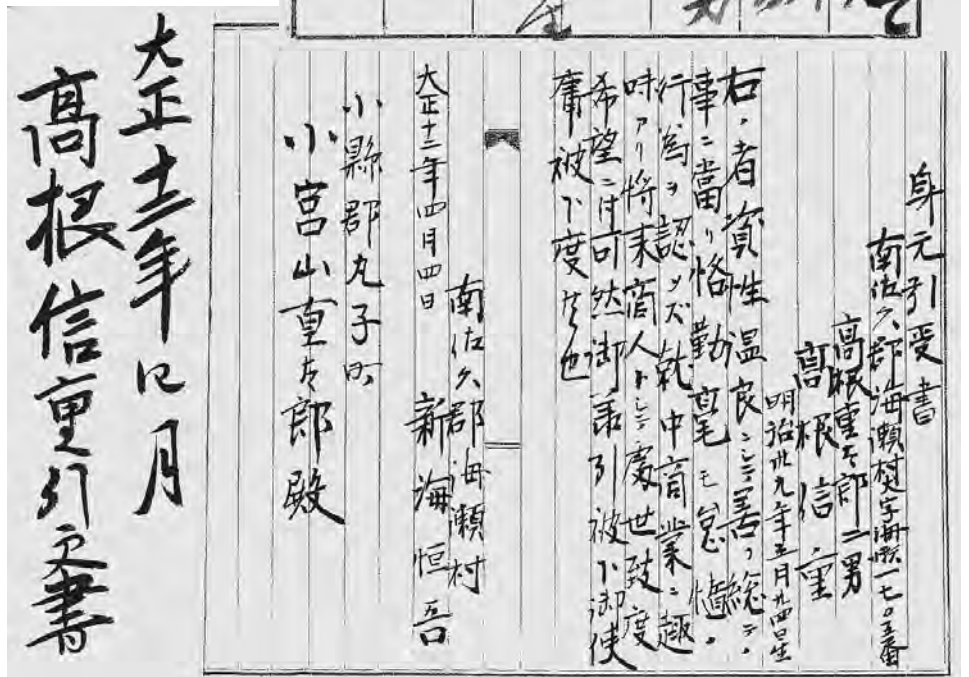
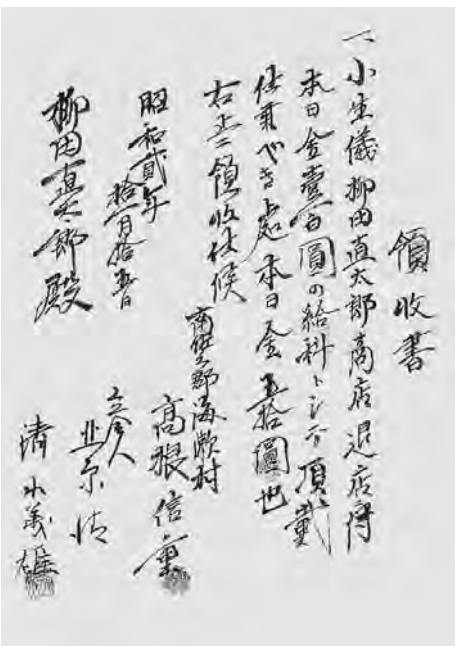
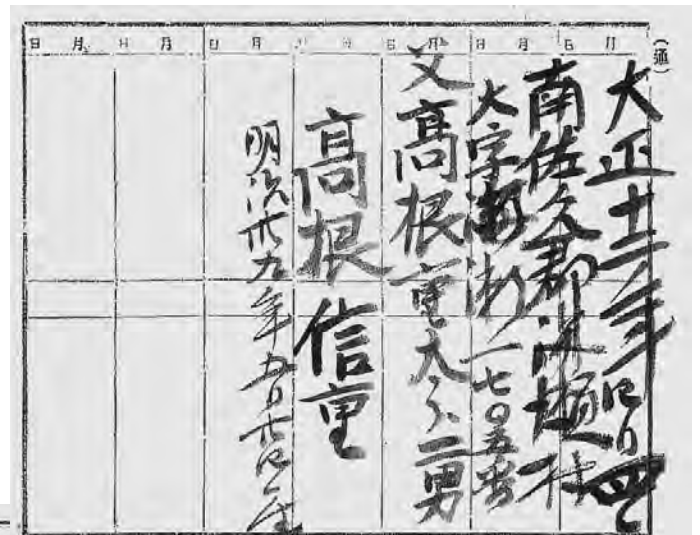
柳 II イゲタリユウと読む



明治の入店控 (表紙)



入店控 (上) 依田尊詮、(下) 長岡新一郎



高根信重の入店控と身元引受書 (大正12年4月4日)

支店の店主たち



柳田金物店 中野支店



柳田中野支店の店主長岡新一郎と妻きく次 (左)、きく次の母かう (右)



柳田金物店 中野支店



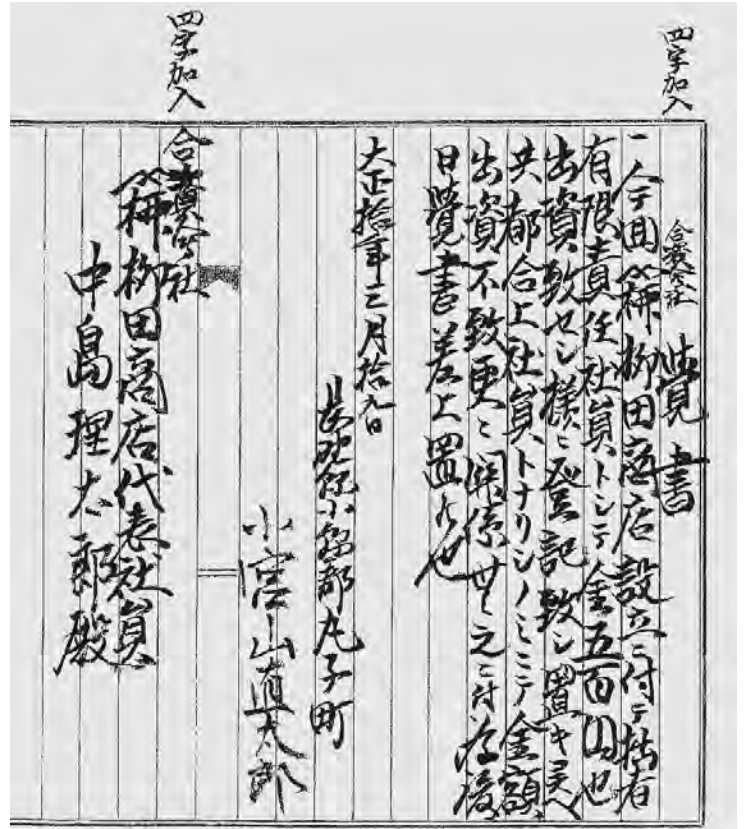
北原家の家族 (後方右から1人目が北原隆)



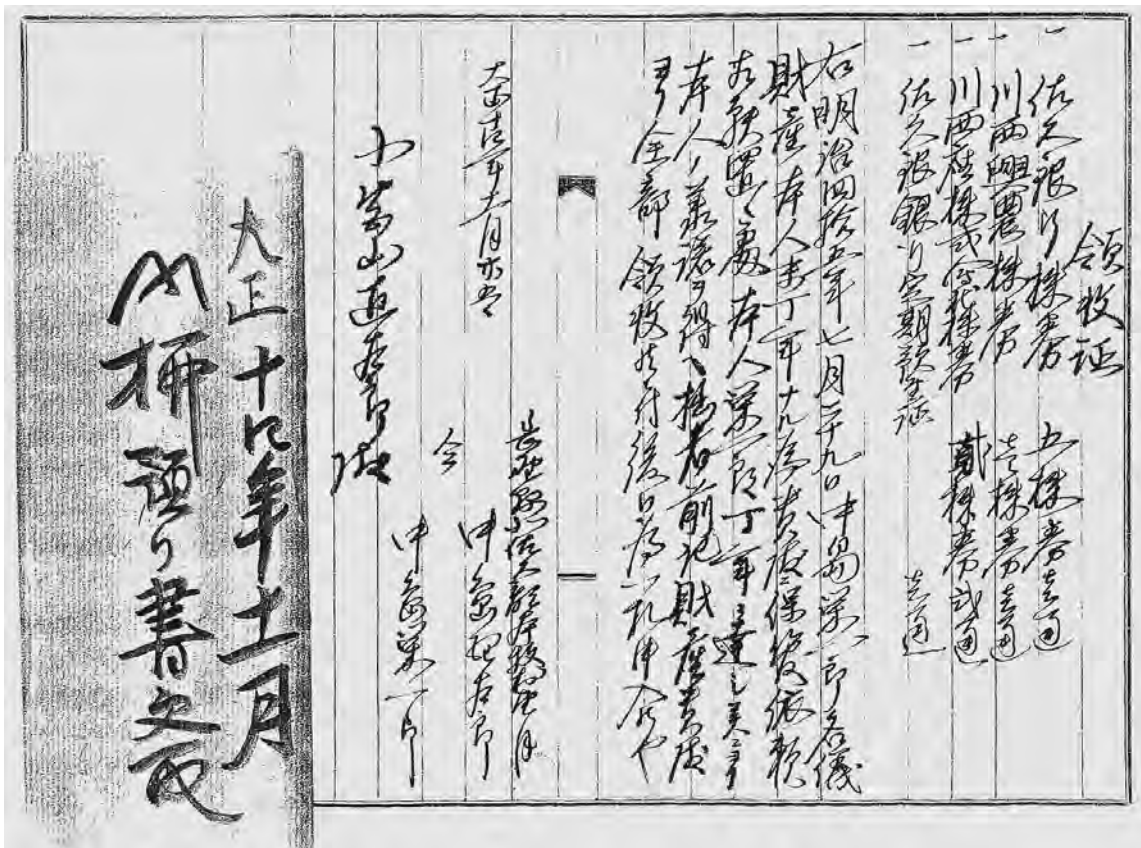
北原 隆 柳田三反田支店 店主 (母かうの弟)



柳田商店 恵比須講大売出し (大正7年11月)



合資会社 柳田商店 (代表社員中島理太郎) 設立覚書 (大正10年3月19日)



柳預り書受取 (大正14年11月)

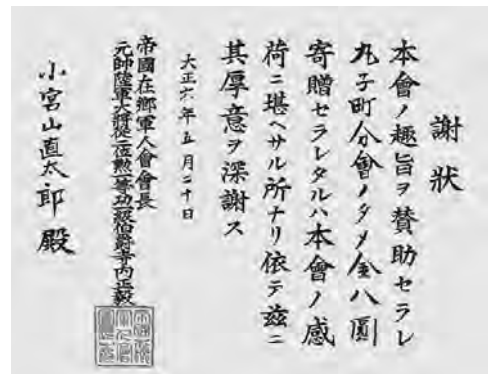
直太郎への感謝状・賞状



昭和2～3年頃の直太郎



記念公園建設基金の寄付への謝状（明治40年11月3日）



帝国在郷軍人会からの謝状（大正6年5月）



旅行先での直太郎



公会堂新築費寄付への謝状（昭和2年3月）



第1回店頭裝飾競技会3等賞（昭和2年2月6日）



第1回商事競技会3等賞（大正15年4月28日）

世は移ろうも

—「株式会社柳田金物店」から
「株式会社ヤナギダ」へ—

明治から大正昭和平成へ

世は移らふも業守り来ぬ



個人から法人へ
「株式会社柳田金物店」に改組



柳田金物店（丸子駅前）の恵比寿講売出し（昭和20年代） 右から友人、昌男（二男）、憲一（長男）、友人、丸子実校実習生3人



計量器販売の免許状（昭和27年2月28日）



度量衡器販売の免許状（昭和27年2月28日）

寫

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| <p>事業概況書</p> <p>当社は創業以来八十有年河の歴史を有する前地販賣の事業の老舗となり、戦後三十七年株式会社組織に改め、金物類、理髮機、料その他附帯事業の柳田金物店を以て本拠を設け、前記に設置し、営業成績は日を追って向上し、内訳の元金ととては益の餘剰の在りしより、翌年三月下旬に於て、一月間平均上約八百萬円、店員従業員、社長以下、職員、下等、当社の営業項目中、取寄高の割合は左の通りなり。</p> <p>家庭金物類 100% 理髮機 100% その他 100%</p> <p>株式会社柳田金物店 代表取締役 林虎雄</p> | | | | | | | | | | | | | |

株式会社柳田金物店の事業概況書
昭和27年に株式会社組織に改める

検用 昭和27年分所得税確定申告書 27年

| | | | | |
|----|-------|---------|--------|---------|
| 1 | 所得の種類 | 所得金額 | 控除金額 | 課税所得金額 |
| 2 | 給与所得 | 126,000 | 10,000 | 116,000 |
| 3 | 退職所得 | | | |
| 4 | 配当所得 | | | |
| 5 | 利息所得 | | | |
| 6 | 不動産所得 | | | |
| 7 | 雑所得 | 200,000 | 10,000 | 190,000 |
| 8 | 合計 | 326,000 | 20,000 | 306,000 |
| 9 | 所得控除 | | 20,000 | |
| 10 | 課税所得 | | | 286,000 |
| 11 | 所得税 | | | 11,000 |
| 12 | 地方税 | | | 50,000 |
| 13 | 合計 | | | 61,000 |

| | | |
|----|-----|--------|
| 14 | 所得税 | 11,000 |
| 15 | 地方税 | 50,000 |
| 16 | 合計 | 61,000 |

昭和27年分所得税確定申告書(小宮山国一)



柳田金物店社用車第1号ダットサン (昭和28年購入)



柳田金物店の前で 従業員の矢沢重郎 (昭和20年代)



社用車第2号



駅前店頭のにぎわい 都市計画以前 (昭和20年代)



都市計画に伴う柳田金物店の看板撤去



柳田建材部店舗工事（昭和41年5月27日から着工）



柳田建材部店舗工事（5月～7月）



上丸子（三反田）建材部店舗裏の自宅庭にて国一社長（昭和42年）

建設工事請負契約書

1、工事名 柳田三反田新築工事
 2、工事場所 上丸子
 3、工期 着工 昭和41年5月15日
 完成 昭和41年7月10日
 4、請負代金額 全 4,600,000 円

上記の工事について、注文者 柳田金物店
 と請負者 青木建設工業株式会社 とはおのの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によつて、請負契約を締結し、信義に従つて誠実にこれを履行するものとする。
 この契約の証として、本書3通を作成し、当事者記名押印のう各各自1通を保有する。

昭和41年5月15日

注文者 住所 長野県小原郡上丸子1017
株式会社柳田金物店
 氏名 取締役社長 小宮山 國一

請負者 住所 長野県小原郡上丸子1708番地
青木建設工業株式会社
 氏名 代表取締役 青木 敏博

請負者がこの契約による債務を履行しない場合において、当該請負者に代つてその履行をなす責を負う。

工事完成保証人 住所 _____
 氏名 _____

柳田建材部店舗新築工事契約書



柳田建材部、三反田へ新築移転（昭和41年）

海外視察

国一社長、ニューヨーク視察（昭和46年）▶



ニューヨーク視察（左）飯島建設飯島典男社長、（右）国一社長



▲小宮山康浩（左）、国一社長（右）



小宮山康浩（左）、国一社長（右）

サンフランシスコ視察（昭和46年6月）